

飯島賢二の『恐縮ですが・・・一言コラム』

第 155 回 GPS による「うちわ祭り巡行管理システム」の提案

2006.6.25

実にローカルな話で恐縮だが、今回はわがふるさと「熊谷」のことである。ここ熊谷では毎年7月に「うちわ祭り」と称して、盛大な夏祭りが行われる。自称「関東一の祇園祭」と自慢するだけあって、祭り期間中の人手は、約70万人を超す賑わいをみせる。

市内12ヶ町に、それぞれ独特の山車、屋台を所有。子供達やお年寄りも一緒に山車を引っ張って、町内をぐるぐる巡行する。京都の祇園さんや、高山のお祭りのように荘厳な雄姿をもつ四輪車でなく、いずれも三輪車であること、全国的にも珍しい。従って、町内狭い路地であっても、簡単に方向転回ができ、12ヶ町くまなく回ることができる。更にそのお囃子は、俗称「けんかつ囃子」といって、実に威勢がいい。締め太鼓3基、直径50cm以上ある鉦が3台、大太鼓に笛という編成はいずれも同じだが、町内によってそのテンポが違う。全身全霊を使って「たたき合い」をするエキサイティングなシーンは、「熊谷っ子」に限らず、恐らく病みつきになるかもしれない。そう、もうこの時期になると「熊谷っ子」の頭の中は祭り一色、みんな、何となくそわそわして、落ち着きがなくなっている...熊谷の「熱さ」の象徴である。

いやはや、本コラムのテーマは「うちわ祭り」の紹介ではなかった。その歴史や概要の詳細はお祭りサイト(<http://www.360.jp/utiwa/>)をご覧くださいとして、ここでちょっと提案、GPSによる「うちわ祭り巡行管理システム」の提案である。

気温35度超の猛暑の中、子供達が山車を引いて町内を巡行するため、どうしても適度な休憩を取らないと、熱中症等予想される。町内の篤志家にご協力頂き、休憩の場所の提供、お菓子や水分補給のための飲み物の提供をお願いしている。提供する方は、冷たい飲み物を出来るだけ冷たいうちに...という配慮から氷等を用意して、ひたすら山車が来るのを待っている。予定はあらかじめ知らされているが、これが全くその通りいかない。何時来るのか、イライラしながら待っている間、せっかく用意した氷は溶けてしまう。

実に簡単な話、今現在、山車がどこにいるか分かれば、随分状況が変わる筈である。何て事はない、山車の上にGPS用のアンテナを設置すればいい。これをパソコンに限らず、携帯電話でチェックできるようにすれば、尚更利便性は高まっていく筈である。喧嘩は祭りに付き物とは、いかにも「いなせ」でカッコいいかも知れないが、現実に警備を担当する警察・お祭り関係者はたまったもんじゃ無い。実際には、常に神経をすり減らしながら、猛暑にめげず、大変な任務を全うしなければならないのである。もし、GISにより、瞬時に山車の居場所が分かれば、警備の方法や人員、交通対策や緊急対応が高度化されるかもしれない。「安心」「安全」の保障と効率化の推進化のために、GPSによる「うちわ祭り巡行管理システム」、いかがなものか?? きっと、大した投資にはならない筈である。